

2016年度活動報告

飯田日中友好協会は、かつて全国で最も多くの開拓団を送出した飯田下伊那地域の歴史を踏まえ、長年にわたり中国帰国者へのさまざまな支援活動を積極的に行うとともに、旧満洲開拓地への友好視察訪問、現地の方々との交流を続けてきました。しかし近年の日中関係は緊張状態が続いており、しばらく訪中事業に取り組むことが出来ませんでした。徐々にその関係にも明るい兆しが見え始めたことをうけ、今年度は6年ぶりに中国東北部への訪中事業を実施することができました。多くの開拓団跡地を訪問し、古くからの友人と再会し、現地の方々との交流を行うなか、収穫も多く意義深い事業となりました。更にこの事業に参加された方の中から、日中友好事業へ共感と関心もち、当協会への入会につながったことも大きな成果といえます。

今年度は、長野県日中友好協会創立60周年の年にあたり、数多くの記念行事が開催されました。当会としても積極的に参加、協力を行ってきました。

開館から4年目を迎えた満蒙開拓平和記念館とは常に連携をとり、語り部の派遣をはじめ多くの事業に参加協力をしています。昨年11月には天皇皇后両陛下がご来館されました。「満蒙開拓」の歴史を伝える記念館に訪問されたことはたいへん意義深く、今後も記念館と共にこの史実を語り継ぎ、平和を発信していかなければなりません。

この飯田下伊那には多くの中国帰国者の方々暮らししており、帰国者への「関心と理解を深める活動」を通じ、支援や理解の輪を広げる活動も進めてきました。

1. 飯田日中友好協会中国東北地方友好訪問の旅事業の実施

日中共同声明の原点を踏まえ、平和の尊さを学び、日中不再戦の思いを深くすると共に、地方における日中平和友好の増進をはかることを目的に、8月31日～9月5日の日程で「中国東北地方友好訪問の旅」を実施しました。参加者は元開拓団員6名と二・三世4名を含む男性14名、女性11名の計25名。年齢は31歳～82歳と幅広く、日中会員の他に参加者の半数以上は一般の方で、飯田下伊那以外に長野市、東京都からの参加もありました。

団全体では「731部隊陳列館」及び「中国養父母展」の見学、ハルピン市中国養父母連絡会や中国人養母など関係者等との交流、「方正日本人公墓」の墓参を行いました。2日目からA、B2つの班に分けての活動となりました。



A方正県表敬訪問



A残留孤児孫さんと

A班(清水可晴団長以下9名)は、方正県人民政府の表敬訪問、通河県、木蘭県の開拓団跡地の訪問などを行いました。未だ帰国を果たせない残留孤児の女性や飯田にゆかりのある方々と偶然遭遇したり、それぞれの地で多くの出会いと発見がありました。

B班(寺沢秀文団長以下16名)は、宝清県へ移動し、人民政府を表敬訪問後宝光寺の訪問とお参りをしました。また万金山高社郷開拓団跡地や「珍宝島事件記念館」等を見学し、尖山更級郷開拓団跡地を訪問も行いました。最後に今回の最大の目的であった北哈嗎阿智郷開拓団跡地、東横林南信濃郷開拓団を訪ねました。開拓団があったことを残す痕跡等はほとんど残っていなかったものの、本部があったという付近で全員で黙祷を行いました。ハルピン市にもどってからは旧ハルピンヤマトホテル(満鉄経営)や終戦前後の避難民収容所ともなった旧桃山小学校(現兆麟小学校)なども視察しました。



北哈嗎阿智郷にて

今回の「北哈嗎阿智郷開拓団」、「東横林南信濃郷開拓団」は、公式な形での現地訪問は戦後初めてのことであり、70年ぶりの慰霊訪問を行うことが出来ました。

B東横林南信濃郷にて→



2. 中国帰国者の支援、交流事業の推進

1) 飯伊中国帰国者連絡会の活動

飯伊中国帰国者連絡会は、昨年会長に多田清司さんが就任し、新たな役員体制のもとで活動を再開しました。中国帰国者一世の皆さんも高齢化しており、中には介護が必要な方もいます。また孤独やさみしさを訴える方々も多く、その対応も必要となっており、連絡会の役割は重要です。連絡会では随時役員会を開催し、帰国者の皆さんが定期的に一堂に会して会話を楽しんだり、運動する機会を設けるという方針で事業計画を検討しています。2017年秋には1日バスハイクの計画がすすんでいます。送迎や事業経費などの課題も多く、当会としても役員会への参加、事業相談などの支援を行っています。

2) 高齢者向け日本語教室および 二、三世向け日本語教室の実施

国では平成20年、帰国者一世への給付金制度や生活する地域でのいきがい対策、引きこもり予防などの支援策を打ち出しました。本来、帰国者が生活する自治体が主体となった取り組みが求められますが、長野県では帰国者支援連絡会を設け対応していません。当会では、下伊那北部や阿智村の帰国者を対象に、日本語教室等を開催しています。



秋の運動会にて

- ・高齢者向け日本語教室 24回 延 167人 (毎月各1回、豊丘と阿智で実施)
- ・二、三世向け日本語教室 24回 延 160人 (毎月2回、阿智で実施)

3) 「中国帰国者への理解を深める県民のつどい」への参加

中国春節交流会を兼ね、中国帰国者の皆さんがたどった歴史と現状に耳を傾け理解を深めることを目的に、長野県と長野県日中友好協会による「第9回中国帰国者への理解を深める県民の集い」が、2月5日長野市のホテル犀北館で開かれました。県下の帰国者や友好協会関係者、一般県民など200名を超える大勢の県民が参加し、帰国者の体験発表、中国歌舞団公演、交流会など行われました。また特別報告として、満蒙開拓平和記念館ボランティア



下伊那の出し物

グループ「ピースLabo」代表木村多喜子さんが、記念館の状況や会の活動について報告を行いました。飯田下伊那からはマイクロバス2台で約40名参加しました。こうした事業に一人でも多くの県民が参加し、帰国者への理解を深め、誰もが安心して暮らせる地域づくりにつながることを期待されます。

4) 飯田市主催帰国者交流会への参加

3月9日飯田市の砂払温泉において、恒例の飯田市主催の帰国者交流会が開催されました。今年度も当会では郡部の帰国者の方々への送迎や財政支援等を行いました。近年帰国者の高齢化と共に参加者が減少してきていますが、30名を超える帰国者と大勢の来賓の参加のもと、賑やかな交流会となりました。



全員で稲歌おどり

3. 多彩な交流事業、各種友好団体との連携

1) 長野県日中友好協会創立60周年記念事業への参加協力

今年度は長野県日中友好協会創立60周年にあたり、大きな事業が数多く開催されました。4月には、緑化協力訪中団派遣事業が行われ、飯田日中からも2名の方が参加し、訪問地での緑化プロジェクトに協力し、現地関係者の皆さんと交流しました。また、10月に開催された記念祝賀会へは当会からも大勢の会員が参加しています。さらに60周年記念誌「虹の架け橋-長野県日中の歩みIV」の発刊にあたり、編集委員会、寄稿など積極的な協力を行いました。

2) 留学生等との交流

長野県日中青年委員会と女性委員会の主催で、7月には第51回日中友好キャンプ、2月には第50回日中交流スキーが開催され、会員など大勢参加し、留学生や大使館員、帰国者の皆さんと交流を行いました。

3) 「人民中国」読書会との交流

中国紹介の月刊誌「人民中国」読書会は、長野市を拠点として活動していますが、第32回の定例読書会が飯田を会場に開催されました。読書会会員はじめ「人民中国」編集者の皆さん30名ほどが来飯され、満蒙開拓平和記念館や長岳寺の見学を行ったあと、当会会員も参加して交流会を行いました。飯田日中友好協会や満蒙開拓平和記念館の活動などを知っていただく良い機会となりました。

4) 飯田国際交流推進協会主催の各種行事へ参加

12月に行われた「国際交流の夕べ」には、チケットの販売や中国水餃子の提供、中国文化や飯田日中友好協会の事業紹介など、積極的に協力を行いました。青年委員会を中心に活動し、大勢の帰国者の協力と会員の参加がありました。

また、3月に行われた「小さな世界都市IIDAE地球村」には、女性委員会が中心となり中国水餃子の提供を行い、飯田下伊那に生活する様々な国の皆さんとの交流を楽しみました。

4. 組織、委員会活動等の推進

1) 青年委員会中国語教室への支援、協力

青年委員会が、昨年10月より1年間の予定で開催している中国語教室に支援、協力をしています。日中会員以外の参加者も多く、この教室で中国語をはじめ中国の様々な文化に触れることで、日中友好事業にも関心を持ち、また当会への入会につながることを期待しています。

2) 年間通じて新会員の加入を積極的に呼びかけています。

今年度は訪中事業に参加された方の中から5名の新入会がありました。通算して新入会8名、退会が3名で、差引5名の増となりました。

3) 「飯田日中ニュース」の発行に努め、機関誌「日本と中国」の発送を行いました。

4) 「飯田日中ホームページ」の更新、充実に努め、「満蒙開拓平和記念館ホームページ」の活用のほか、報道機関への広報活動に努めてきました。

- ・ 飯田日中友好協会のホームページ <http://www.mis.janis.or.jp/~nihao-iida/>
- ・ 満蒙開拓平和記念館のホームページ <http://www.manmoukinenkan.com/>